

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

藤 京子* 本山 芳男**

Voluntary Learning and Understanding of Childcare Training Guidance Ⅰ

Kyoko FUJI Yoshio MOTOYAMA

Ⅰ はじめに

「実習指導Ⅰ-2における自主的な学びの導入」（千葉敬愛短期大学紀要第37号）において、自主的な学びへの関心が高いことが明らかになった。そこで今回学生の自主的な学びへの認識を再度把握し、授業への満足度並びに施設理解を明確にすることで、今後の授業展開の一助とすることを目的とする。

Ⅱ 方法

1 対象

A短期大学 1年180名

2 授業期間

平成26年度9月から1月

3 アンケート調査

第15回授業終了時に別紙資料1により実施する。

4 授業の進め方について

（1）第1回目

授業の進め方の説明をし、「映像でつづる日本の社会福祉施設」（DVD（社）日本生活問題研究所監修）を観る。

（2）第2回目

学生の希望に基づいて調べる施設のグループ分けをし、7回目まで図書室やパソコンを活用し、自主学習をする。なおグループは、児童福祉施設（乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、母子生活支援施設、知的障害児入所施設、肢体不自由児・重症心身障害児入所施設）そして障害者支援施設の七施設からなる。

（3）第8回から14回目

毎回1グループの発表（発表時間は60分）とし、発表後に教員が30分補足説明をする。

Ⅲ 結果

1 授業開始時と終了時の気持ち

（1）全体の度数変化

表1は、15回目の授業終了時の授業開始時と終了時の気持ちの変化を示したものである。

表1 開始時の気持ち×終了時の気持ち

終了時 開始時	講義形式	演習形式	分からない	計
講義形式	20	48	6	74
演習形式	15	74	5	94
分からない	3	6	3	12
計	38	128	14	180

*元千葉敬愛短期大学 **千葉敬愛短期大学

気持ちの変化を χ^2 検定したところ、第1回目と終了時の気持ちに統計的に5%水準で有意差があった($\chi^2 = 9.73$ d f = 4 $p < .05$)。このことは、開始時に「講義形式」が良いと回答した学生は、終了時点でも「講義形式」が良いと回答し、開始時に「演習形式」が良いと回答した学生は、終了時点でも「演習形式」が良いと回答していることを示している。

さらに、授業開始時の希望する授業形式として「講義形式」と「演習形式」の両者間に有意差はなかった($\chi^2 = 2.38$ d f = 1 n.s)が、終了時点では次回の希望する授業形式間の差を見たところ、5%水準で有意に「演習形式」を選択していた($\chi^2 = 48.79$ d f = 1 $p < .05$)。

(2) 記述内容

以下は、表1に示した開始時と終了時の学生の選択要望の理由を類別し、さらに代表的な記述を掲載したものである。なお、括弧内の数字は、分母に記述した学生数、分子に類別に該当する回答者数を示したものである。また、記述は原文のままとした。

① 最初に「講義形式」が良いを選んだ学生

- ア 終了時、次回も「講義形式」が良いとした学生 20 名中 19 名の類別並びに記述
 (ア) 不安、および不十分と思った (14/19)
 自分が調べた施設以外の理解が不十分になってしまうから / 自分たちで調べると不足部分が多い
 (イ) 理解が深まった (5/19)
 正しい知識がわかり易く説明されている /

理解が深まる

- イ 終了時、次回は「演習形式」を選択した学生 48 名の類別並びに記述

(ア) 理解が深まった (45/48)

発表することで深く学ぼうという気持ちが出来、聞く側も集中して聞いているように感じた / 調べたりまとめたりする力が付いただけでなく、学生同士の発表もわかりやすかった

(イ) 自分たちが調べた施設への理解が深まった (3/48)

調べた施設への関心が深まった / 自分で調べたところは身に付く

- ウ 終了時、次回は「わからない」を選択した学生 6 名中 4 名の類別並びに記述

(ア) 理解している実感がわからない (2/4)

理解できているのか今一わからなかった。勉強しているという感覚になれなかった / もっと学ばなければいけないと思った

(イ) 理解の偏り (1/4)

自分が調べたものはよく理解出来たが、他の施設はあまり理解出来なかった

(ウ) 文章を読み上げる方式のプレゼン (1/4)

ノートをとるのが難しい

② 最初に「演習形式」が良いとした学生

- ア 終了時、次回は「講義形式」を選択した学生 15 名中 13 名の類別並びに記述

(ア) まとめること、プレゼンすることなどが難しい (3/13)

まとめるのがすごく大変だった / 教えることは難しいと思った

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

- (イ) まんべんなく学べる (10/13)
先生の方が教え方がうまいから。発表じゃ分からないところがあった／自分たちで調べると足りない情報もたくさんあるから
- イ 終了時、次回も「演習形式」を選択した学生 74 名中 70 名の類別並びに記述
- (ア) 自分たちで調べてより理解が深まった (42/70)
自分たちで調べることで勉強になるし、理解しやすい／自分たちで調べて、発表までの準備や計画が楽しかったから
- (イ) 友達のグループの発表が参考になった (28/70)
友達が発表しているため入りやすい／友達が調べたから聞こうという意欲がわいた
- ウ 終了時、「分からない」とした学生 5 名の類別並びに記述
- (ア) どちらがいいかわからない (3/5)
自分の調べた施設はよくわかった。発表を聞くと難しい言葉もあり、先生だったら簡潔に説明できるのかと思った／自分たち以外の班はメモを取るのに精いっぱい。抜けている情報がある
- (イ) 演習形式と講義形式の両方がいい (2/5)
グループ間の差があるから／両方あるといい
- ③ 最初に「分からない」とした学生
- ア 終了時、「講義形式」を選択した学生 3 名の類別並びに記述
- 十分な学びができない (3/3)
- 自分たちで調べた施設はよく分かるけど、他の施設は聞き漏らしもあるかもしれない／自分も調べたところを含めて抜けているところが多いため
- イ 終了時、「演習形式」を選択した学生 6 名の類別並びに記述
- (ア) 自分たちで調べてより理解が深まった (4/6)
自分たちで調べることで、施設に対しての興味や関心を持つようになったから／調べて頭を使うと眠くならないから
- (イ) 友達のグループの発表が参考になった (2/6)
相互の発表を聴いて楽しくわかりやすくてできた／話を聞こうとする意欲がわいてきた
- ウ 終了時、「分からない」を選択した学生 3 名の類別並びに記述
- (ア) 不確かな情報 (1/3)
中は深まるが、ネットの情報の不確かなものもある。
- (イ) 学びの偏り (1/3)
発表することは理解が深まるけど、それ以外の施設に関しての理解は大変だと思う
- (ウ) よく分からない (1/3)
どちらもよいと思ったから
- (3) 授業終了時の気持ちと授業の満足度
- 表 2 は、15 回目終了時において学生が次回希望する授業形態と当該授業の満足度を示したものである。満足度の A は「すごく満足」、B は「少し満足」、C は「どちらと

も言えない」、Dは「あまり満足していない」そしてEは「全く満足していない」を表している。

表2 授業終了時の気持ちと授業の満足度

満足度 次回の形態	A	B	C	D	E	計
講義形式	3	29	4	2	0	38
演習形式	55	67	5	1	0	128
分からない	1	6	5	1	1	14
計	59	102	14	4	1	180

授業形態の「分からない」行と満足度C「どちらともいえない」、D「あまり満足していない」、E「全く満足していない」列の度数が低いために、希望する授業形式の「講義形式」「演習形式」と今回の授業満足度A「すごく満足」、B「少し満足」を抜き出し、回答差を見たところ、5%水準で有意差が見られた ($\chi^2 = 13.76$ d f = 1 p < .05)。このことは、次回「講義形式」を希望している学生は「少し満足」、そして次回「演習形式」を希望している学生は、「すごく満足」となることを示していた。

(4) 施設理解について

① 自分の調べた施設の理解

「良く分かった」と「良く分らなかった」内容記述を「施設について」「子どもへの支援（利用者の権利）」「障害」「アフターケア」「課題」「実際の様子」「その他」に分類した。そして施設ごとに各記述分類の「良く分かった」内容を抜き出し、さらにそれに従属する「良く分らなかった」内容の記述分類を列挙した。なおここでは、「良く分かった」

と「良く分らなかった」双方の内容記述がなされているもののみ取り上げた。

ア 児童養護施設

(ア) 施設について

【良く分かった】

入所している子どもたちは虐待を受けている子ども達が大半であること。一日の流れ、どんな子が入所しているか、入所理由 / どんな児童が入所するのか、入所するまでの経緯、施設の一日 / 児童養護施設は他の施設と比べ数が多いこと、入所理由は虐待だけでないこと / 入所理由、施設での生活 / 入所理由、施設設備、一日の流れ、年間行事 / 施設内で様々なことが起きていること（暴力と子ども同士）、大舎、小舎などがあることは知らなかった / 概要（カ所数、種類、歴史など） / どんな人が入所しているのか、対象年齢、入所理由。調べてわかることがたくさんあった / 入所理由、職員の仕事、心得 / 虐待を受けて入所している子が多くいること

【良く分らなかった】

- 施設について：千葉県内にいくつあるか / 人員配置など古い数値しか出てなかった / 職員の配置基準 / 大舎制、中舎制、小舎制、お金について
- 支援について：具体的な子どもへの接し方
- 課題について：課題問題について詳しいことをあまり調べられなかった / 問題点と改善策

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

○実際の対応について：児童養護施設の
数に限りがあるので、入れないときは
どのようにするのかわからなかった

○その他：海外の児童養護施設との形態
があまりよく理解できなかった

（イ）子どもの支援について

【良く分かった】

心の傷は大きいこと、子どもたちの生活は私たちとそれほど変わらないということ／暗い雰囲気ばかりなのかと思ったが、そこは子どもたちの生活の場であり、心安らぐ場でなくてはいけないと思った・心に傷を負った子供が多いので、職員たちが十分に安らげる環境の持ち養育していく必要があること、親への援助も必要になってくる／子どもたちの生活、どのように接することが重要か

【良く分からなかった】

○施設：職員について

○課題：施設の抱える問題の解決方法について

○実際の様子：職員と児童の関わり

○その他：国が児童養護施設にどのような援助をしているか

（ウ）障害等について

【良く分かった】

虐待を受けて入所した子どもが入所先の職員から虐待を受けることがあること

【良く分からなかった】

○その他：海外の児童養護施設について

（エ）実際の問題について

【良く分かった】

退所後にどのような問題があるのか

【良く分からなかった】

○課題：アフターケアの実際

イ 乳児院

（ア）施設について

【良く分かった】

一日の流れ、職員のこと／乳児院がどんな所か／基本的情報や利用する人のこと、働くとしたらどのような生活であるか、入所理由、養育内容、児童養護施設との差、市や里親と連携があること／子どもたちは皆家がないというわけではないこと、赤ちゃんポストとの連携／施設運営の大体の流れ、どんな施設か

【良く分からなかった】

○施設：措置／お金のこと／乳児院で働く職員のこと

○支援：職員がどのようなことを考えているのか、退所後の子ども達の具体的な人生など。どのような支援が必要なのか／関わり方について、子どものためにどんな環境構成をしているか

○実際の様子：職員の実際の職場での様子

○その他：他との連携

（イ）課題について

【良く分かった】

乳児院の役割、これからの課題

【良く分からなかった】

その他：実習のとき気を付けること

ウ 母子生活支援施設

（ア）施設について

【良く分かった】

一日の流れ、行事、入所理由、入所の仕方、どんな方が利用しているか／利用する母子は18歳未満の子を養育していること／入所理由はDV[が一番の原因であること／施設に入所しようとする母子世帯が増えているのに施設は減少していくこと／どのような人が利用できるのかということと、どのような施設なのかということ／施設内容、入所理由入所経路など／近年はDVも増加しているのを知り、社会で問題視されていることがどれだけいرونなところに影響しているかを知ることが出来た

【良く分からなかった】

- 施設：具体的な職員の仕事内容
- アフターケア：施設を出た後どのように生活しているか
- 課題：施設の良いところや改善すべき点など／どうしてDVは減らないのだろうか
- 実際の状況：施設の実態、実際に利用している人の声
- その他：実習する時はどのような対応をするのか、実習する時の注意、心得

(イ) 障害等について

【良く分かった】

DVについて詳しく知ることが出来た。

【良く分からなかった】

- 施設：トイレ風呂は設置されているはずなのに、風呂がない施設があったこと

エ 児童自立支援施設

(ア) 施設について

【良く分かった】

少年院と児童自立支援施設の違い／入所理由／入所児は私たちと同じ、一日の流れ、生活の違い／子どもにとってとても必要な施設／児童自立支援施設と少年院の違い／仕事内容、入所後の生活／犯罪を起こしてしまった、またはその恐れがある児童を養育するということ／どのような子どもが入所しているのか、一日の流れ

【良く分からなかった】

- 施設：詳しい一日の生活の内容／退所後の様子／保育士の役割／一日の流れはどこも同じではないのでよく分からなかった
- 支援：利用者の権利について、厳しいと思うスケジュールに対して、子どもたちはどんな思いでいるのか
- その他：歴史について／法律など

(イ) 支援について

【良く分かった】

自立支援の運営目的／こころに寄り添い、話に耳を傾けることが大切であるということ、支援方法が難しいが、家庭的な生活をする事で温かい気持ちを持ち自立に向かっているのだとわかった。

【良く分からなかった】

- 施設：小舎夫婦性、
- 自立支援施設と少年院の分けられているか
- アフターケア：退所後のアフターケアについて

（ウ）問題について

【良く分かった】

非行の原因

【良く分からなかった】

○支援：支援／指導方法

オ 知的障害児入所施設

（ア）施設について

【良く分かった】

高齢化について、様々な障害を抱えた人たちが含まれているということ、①入所、通所について②どんな子が入るのか、措置と契約があること、医療型、福祉型があること／入所までの経路、現状の課題、職員／保育士としての役割

【良く分からなかった】

○施設：歴史について、医療型、福祉型、

第1種、第2種があり分類されるのか

○障害：自閉症と知的障害の関係／利用者についてもっと詳しく知りたかった

○アフターケア：地域とどのような交流があるのか／退所後の具体的支援について

（イ）支援について

【良く分かった】

入所型、通所型、医療型、福祉型があり、どのように施設入所し、ケアされるのか、具体的にどのような症状があるのかわかった／障害児への気持ちに変化したこと／症状や知能によって発達段階が違うことやどのように配慮したらよいかなど／症状や知能によって発達段階が違うこと、対象者にどのように気を付けたらよいか

【良く分からなかった】

○施設：知的障害児施設と自閉症児施設の違い／自閉症が知的障害とどのように区分されているのかわからなかった／入所の仕方や費用

○支援：具体的な支援など／実際の支援

（ウ）障害について

【良く分かった】

障害の分類／知的障害者の気持ちが理解できた／知的障害について、その特徴／知的障害児の定義／障害の程度でできることや苦手なことの違いがわかった／知的障害とはどのようなことなのか／障害を持っている方々が偏見を持たれやすいということ／施設と地域の関係の深さ／知的障害といっても軽度から重度まで段階があること

【良く分からなかった】

○施設：入所とかのルールとかお金／措置や費用／入所のこと／施設の役割について

○障害：知的障害の種類がたくさんあって、どれが正しいのか迷った／知的障害の種類が多く、どの症状が知的障害なのかわからなかった

○課題：施設の機能が弱まっているという現状（どういう意味かぼんやりしたまま発表してしまった）、その他法律が多くてどれが一番ふさわしいのかわからない

（エ）課題について

【良く分かった】

施設の問題点や現状

【良く分からなかった】

○その他；実習に向けての大切な知識についてもっと詳しく調べればよかった

カ 肢体不自由・重症心身障害児施設

(ア) 施設について

【良く分かった】

施設の内容／施設が出来るまでの歴史、医療型や福祉型があり分類されていること／肢体不自由児がどのような子どもなのか／施設内容、入所理由、主な疾患、原因や施設内容が分かった／施設の型がいろいろあること／全体の施設数や場所が知れたこと／施設の概要

【良く分からなかった】

○施設；施設の形態の中でたくさんの種類があり理解できなかった
○支援；障害をもつ人へのケア／肢体不自由児への具体的な介助や援助方法
○障害；疾患の用語が難しい／大島分類
○実際の様子；実際の施設の様子／言葉では理解したが、現状はどうなのかがよく分からない

(イ) 支援について

【良く分かった】

肢体不自由の人の生活支援について、食事の方法、呼吸の管理などの支援がないと死亡率が高くなってしまうこと、手術を受ける方もいること／お金の問題、利用者との関わり／職員の援助、連携をとおして利用者とうかがわかるか／一人ひとりの障害を理解し、接していくことが大切だということ

【良く分からなかった】

○障害；大島分類、重症心身障害のこと
○現状と課題

(ウ) 障害等について

【良く分かった】

身体が不自由なのは筋肉が関係している／障害にも軽度重度の分類があり、その人の状態に合わせてケアをされていることが分かった／原因が分かった

【良く分からなかった】

○障害；重心のこと／肢体不自由と重症心身障害児の違いがわからなかった／実際の様子施設での詳しい生活、等級、IQ

キ 障害者支援施設

(ア) 施設について

【良く分かった】

施設ではどんなことをしているのか、働いている人はどういうことをしているのか／施設職員の役割、施設の一日の様子／障害者を総合的に支援していること／職員、行事、1日の生活、どんな施設か、実習でやってはいけないこと／具体的な入所者の様子。どんな法律をもとに施設があるか／どのような人が入所しているか／一日の流れや必要な免許、施設での生活／高校の頃その風景を見たことがあるが、調べてどのような生活をしているのかわかった

【良く分からなかった】

○施設；いろいろな数値割合が出てきて、新しいものを調べたかった／歴史についてあまりわからなかった
○支援；支援、サービス内容についてま

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

だわからないことが多い

○障害；重度のことがあまり理解できなかった／障害者程度区分が難しかった／入所した人が施設に入ったことで変わるところ

○アフターケア；アフターケア

○その他；施設の歴史

（イ）支援について

【良く分かった】

障害者との関わり方、障害者自立支援法と障害者総合支援法の違い／障害にもさまざまな種類、程度があり、それに対するサービスも利用者の方にあったものになっていることが良く分かった／障害と共に生きていく利用者の方々が、快適に過ごすために施設側は精一杯支援していることが分かった／利用者、入所方法。施設での支援内容／利用者の活動、どのような人が入所し、生活しているか、職員の利用者への配慮

【良く分からなかった】

○施設；施設の範囲が広すぎて難しかった

○その他；障害区分を決める時の調査内容／歴史についてももう少し知りたい

（ウ）障害等について

【良く分かった】

障害の種類、てんかん／障害の種類や仕事内容、障害の種類や程度によって細かく区分されていること／障害程度区分について／障害に様々な種類があること

【良く分からなかった】

○施設；もっと詳しい1日の内容、施設

の種類が幅が広すぎてよく分からなかった

○支援；障害者の接し方についてもっと詳しく調べればよかった

○実際の様子；設置数／施設の様子を映像で見てみたかった。

○その他；法律など

② 自グループ以外の施設理解

ア 他グループの中で「理解しやすかった」施設

表3（別紙資料2）は、他グループの発表を聞いて、「理解しやすかった」と思う施設の数を表したものである。回答間の χ^2 検定を行ったところ5%水準で有意差が見いだされた（ $\chi^2 = 35.82$ d f = 7 p < .05）。「理解しやすかった」のは、「乳児院」と「知的障害児入所施設」であることを示している。

イ 他グループの中で「理解しにくかった」施設

表4（別紙資料2）は、他グループの発表の中で「理解しにくい」施設を表したものである。回答間の χ^2 検定を行ったところ5%水準で有意差が見いだされた（ $\chi^2 = 183.46$ d f = 7 p < .05）。有意に高かったのは、「肢体・重症心身障害児施設」と「無回答」であることを示している。

（4）授業の感想

別紙資料3は授業感想である。回答者は180名中115名（115/180）で、同じ意味合いと思われる内容ごとに分類し、《》内に要

約内容を示し、代表的な記述を二例示したものである。() 内数字は、その分類に属する回答数である。

IV 考察

1 授業の進め方への認識

(1) 量的分析

37号紀要においては、本来学生自身が所持している内発的動機づけを解発する授業の取り組みをすることで、それぞれの能力が発揮され、かつ学ぶことの楽しさも経験できるという仮説を立て実習指導を行った。具体的に学生の学びの意欲的を発揮させるために、藤の取り組みに倣って授業展開を試みた。第1回目の授業時の終了後に学生の取り組みへの認識を把握するためにアンケートを行ったところ、第1回目のアンケートでは、統計的に有意に「講義形式」を希望していた ($\chi^2 = 7.36$ $df = 2$ $P < .05$)。その理由として、そのような授業に慣れ親しんでいること、新しく提示された取り組み内容への不安も影響していると思われる。

しかし、今回のアンケート結果では、開始時においては「分からない」という回答を除いて、「講義形式」と「演習形式」間での統計的な差は見いだせなかった。このことは、前回の研究においては、授業開始前に取り組み方を説明したのちに行った将来に向けての(パースペクティブな)アンケートであり、今回は15回終了しての回想的な(レトロスペクティブな)アンケートという形の違いが、その結果が表れているものと思

われる。しかしながら、差がなかったもののチャンス水準での「講義形式」「演習形式」の選択ということは、不安を抱いた学生もいるということを意味している。それゆえ授業開始前にこのような取り組みをすることの利点を学生に分かりやすく説明し、不安を軽減するような支援が求められる。

また、授業終了後においては、26年度研究と同様、有意に「演習形式」が良いと回答していた。これは、取り組みの経過の中で新しい知識等を自分の中に取り込めたという実感の結果と思われる。

(2) 質的分析

① 最初に「講義形式」、次回も「講義形式」と回答した学生(以下、「講義形式」-「講義形式」とする。)

この選択をした学生は、自分たちが調べると十分な調べができない、自分たちが調べた施設以外は余り理解できない、それに対して講義のほうが満遍なく学べるといった理由を挙げている。

ここに留まっている学生は、学ぼうとしている内容が不明確なために、自らの力で調べ、理解を深めていこうとする気持ちになり難かったものと思われる。そのためにある程度、事前に調べる内容の枠組みを示すことが必要になると思われる。

② 「講義形式」-「演習形式」

最初に「講義形式」が良いとしたのは、「十分に調べきれない」「学生の負担が大きい」「演習形式は非日常的」「講義の方が」わかりやすい」というものだったが、「調べるこ

とでより理解が深まった」「補足説明があったから」などと当初の理由が変化している。これは、最初に慣れ親しんだ学び方の変更に不安を覚えたが、いざ取り組んでみると調べた施設への理解が深まり、その分かることへの効力感や達成感を体験したことによるものと思われる。また、記述の中で、「自分の調べた施設は良く分かったが、他のグループのものはあまり身につかない」というものがあったが、それを上回る成果を実感したことで最終的に「演習形式」を選択したものと思われる。

③「講義形式」－「分からない」

最初に「講義形式」が良いとした理由として、「十分に調べきれない」「分かるように説明するのが難しい」「プレゼンテーションの仕方が分からない」というものであったが、最終的に「理解しているという実感がない」「自分の調べたもの以外は、理解できない」という理由で「分からない」を選択したものと思われる。②と同様に「自分の調べたもの以外は、理解できない」という記載があるにもかかわらず「分からない」となった背景として、①と同様に「今学ぼうとしている内容が不明確なために、自らの力で調べ、理解を深めていこうとする気持ちになり難かった」と思われる。

④「演習形式」－「講義形式」

最初に「演習形式」が良いとした理由として「より理解できる」というものであったが、終了後において「演習形式」からの学びの少なさから「講義形式」の方が分か

りやすい、「調べたものが不十分」「自分の調べた施設以外はよく分からない」「プレゼンテーションの大変さ」などというものが挙げられていた。

この学生たちも、取り掛かる前は楽しそう、良く分かるのではという思いを抱いていたと思われるが、いざ取り組むとエネルギーの投資に対しての成果を上回る不安全感があったものと思われる。このことに対しても、①と同様な背景が考えられるので、そのことへの支援に加えて、調べていく経過の中での学びのつまずきなどを明確にし、支援していくことが求められる。

⑤「演習形式」－「演習形式」

最初に「演習形式」が良いとした理由として「理解しやすい」「身につく」「多くの情報」「プレゼンテーションの仕方」「授業の取り組み」などが挙げられており、終了時点でも「多くの情報」を除くと同じ理由を挙げて「演習形式」が良いとしており、肯定的な思いを抱いているといえる。

⑥「演習形式」－「分からない」

最初「演習形式」を選んだ理由として、「理解しやすい」「身につく」「関心の高さ」を示していたが、終了時点では自分たちの調べた施設は良く分かったが、他のグループ発表を聞いて理解するのは難しい、記録をするのが大変という理由で、どちらがいいか「わからない」となったものと思われる。少なくとも最初「演習形式」を選んで意欲的に取り組んでいたはずなのに、最終的には「分からない」となってしまった。その背景には、①と同様な背景が考えられる。

⑦「分からない」－「講義形式」

最初の時点で取り組み方が「よく分からない」ものと思われた。最終的には「講義形式」を選択しているが、その背景として①と同様のことが考えられる。

⑧「分からない」－「演習形式」

今回の取り組みをしていく中で、自分からそのことへの意味を覚知し、本来所持している内発的動機付けが発動したものと思われる。この学生たちは取り組みの中で、たまたま意味を見出し、エネルギーを注ぐことができたが、より充実させるために①と同様な背景が考えられるので、そのことへの支援をしていくことが求められる。

⑨「分からない」－「分からない」

この学生たちは、最初はどのように取り組んだらよいか不明確だったことから「分からない」としたものと思われるが、終了時点においてもその不明確さに変化がなかったものと思われる。そのために①と同様の支援をすることと、事前に信憑性の高い情報（公的な部署が出している最新のもの）を検索する項目を示す必要があると思われる。

2 次回の授業の希望形態と今回の満足度

15 回目の授業終了後に「講義形式」が良いと回答した学生は、「少し満足」と回答する割合が高く、「すごく満足」と回答する学生の割合が低いことを示している。それに対して、「演習形式」が良いと回答した学生は、「すごく満足」と回答する割合が高く、「少し満足」と回答する割合が低いことを示している。

これらのことは、自ら課題を調べ、学ぶことが良いとした学生は、満足度の高いことを示していることより内発的動機づけを発動し、知的好奇心を満たされたことによる満足になっていると思われる。しかしながら「すごく満足」「少し満足」の回答数を見ると、統計的に5%水準で「少し満足」が多いことを示している（ $\chi^2 = 9.37$ d f = 1 P < .05）。

このことは、1の（2）質的分析で示したように、どのように進めたらよいかという枠組みの不明確さも関係していると思われるので、授業を進める前に説明をすると共に、調べの途中においても施設ごとに必要な情報を示し、そして発表後には学生に効力感が感じられるような支援をする必要があると思われる。

3 調べた施設への理解度

（1）児童養護施設

学生の記述を概観して、便宜的に七分類（施設について、子どもの支援、障害・問題とされていること、アフターケア、課題、実際の様子そしてその他。以下すべて同じ）したところ、学生が「良く分からない」とした箇所は、①施設（措置、設備運営基準、生活規模等）②子どもへの支援③課題④実際の対応⑤その他（国との関係、外国の子どもの処遇等）であった。

補足内容として、①施設（措置、設備運営基準、生活する規模等）については、入所、対処の仕組み、最新の職員配置基準、そして子どもの生活形態が小規模化（小規模グループホーム、地域小規模児童養護施設

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

設）の方向にあること、②子どもへの支援については、具体的ななかかわり方以前に子どもの権利擁護の意味を理解できるように支援すること、③課題については、①の職員配置基準と②の子どもへの支援と結び付けて、職員が疲弊しないようなOJT、ケースカンファレンスなどの取り組みについて、④実際の対応については、具体的な自立に向けての取り組みについて、そして⑤その他（国との関係、外国の子どもの処遇等）については、福祉行政の体系や要保護児童の処遇に関して、外国（イギリス、アメリカ等）との違いを説明することが考えられる。

（２）乳児院

乳児院に関しては、良く分からなかった内容は少ないが、①施設（措置、設備運営基準等）②子どもへの支援③実際の対応④その他（関係機関との連携）に関しての補足を十分にすることが必要であると思われる。

補足内容として、①施設（措置、設備運営基準等）については、措置（実際の処遇の仕方は、児童養護施設の措置と異なり、病院等から直接施設入所となることがあること、受け入れ年齢の幅が拡大したこと、職員配置基準も変更されていることなど）のこと、②子どもへの支援については、子どもとの愛着を形成しやすくするために担当制を取り入れていることがあること、③実際の対応については、月齢に応じて子どもの生活リズムが異なるため、それぞれの月齢に応じた一日の生活の流れがあること、④その他については、措置の変更、家庭引

き取りに向けて様々な関係機関との連携が必要不可欠になることを説明することが考えられる。

（３）母子生活支援施設

母子生活支援施設に関しては、①施設（職員の日々の取り組み、多様な施設形態）②アフターケア③課題（施設の問題点）④実際の状況⑤その他（実習生としての留意事項）に関して補足説明する必要がある。

補足内容として、①施設については、母子生活支援施設が世帯ごとに生活（中には母親が日中就労し、子どもは学校へ行っていることがある）していること、②アフターケアについては、母子への施設退所に向けて関係機関と連携をし、かつ退所後も仕事や育児面の相談に応じていること、③課題については、DV等で支援の必要な母子が増加している中で施設数が減少していること、④実際の状況については、入所期間や母子の状態に応じて、その直面している課題に対応していること、⑤その他については、①②④の中で、職員が不安定な状況にある母子にどのような視点で支援しているかを学ぶことを説明することが考えられる。

（４）児童自立支援施設

児童自立支援施設に関しては、①施設（詳しい一日の流れ、職員の役割、小舎夫婦制、少年院との違い）②支援（権利擁護）③アフターケア④その他（歴史など）などの補足説明が求められる。

補足内容として、①施設（詳しい一日の

流れ、職員の役割、小舎夫婦制、少年院との違い)については、「少年法と児童福祉法の中での処遇形態」、「一日の流れ(平日の日中は学校教育を受けている)」、「特定の大人との親密な関係作りが大切であること」、②支援(権利擁護)については、「子どもとして養育者から当然受ける権利の不十分な享受の結果、様々な問題行動を起こしていること」、「小規模グループケアを導入し、より安定した人間関係を構築しようとしていること」③アフターケアについては、入所から試験登校、家庭復帰、その後の関わりについて、④その他(歴史など)については、感化院、教護院、児童自立支援施設と名前の変遷とその背景にある考え方について説明することが考えられる。

(5) 知的障害児入所施設

知的障害児入所施設に関しては、①施設(施設種別、措置と契約、歴史等)②支援③障害④アフターケア⑤その他(法律、実習生としての留意事項)の補足説明が求められる。

補足内容として、①施設(施設種別、措置と契約、歴史等)については、「サービスを受けるには受給者証を受ける必要があること」、「平成24年4月1日以降従来の障害種別ごとではなく、福祉型医療型に二分されたこと」、「通所(発達支援センター)と入所施設の実施機関が変更したこと」など、②支援については、職員との関係性を深め、それを梃子にして自立を支援していること、③障害については、その人を区別

するためにあるのではなく、より良く理解し、適切な関わりをとるためにあること、④アフターケアについては、平成30年からは過年児は、大人としての施設処遇を受けることになること、⑤その他(法律、実習生としての留意事項)としては、表出言語を持たなくとも了解言語をもっていることで、自分たちと同じ存在だと認識して関わる必要があることを説明することが考えられる。

(6) 肢体不自由・重症心身障害児施設

肢体不自由児・重症心身障害児施設に関しては、①施設(多様な障害)②支援③障害④課題⑤実際の様子などの補足説明が必要になる。

補足内容として、①施設(多様な障害)については、施設の性格が医療であること、そのために様々な障害(脳性まひ、自閉症、重複障害など)の子どもの医療的ケアを行う施設でもあること、②支援については、疾患に基づく支援がなされているため、日常的に耳慣れない用語(経管栄養、疾患名、理学療法、作業療法など)が使用されていること、③障害については、「身体障害、知的障害、重複障害など幅広いこと」、「大島分類」のこと、④課題として、一人ひとりの利用者の自立の考え方、⑤実際の様子については、利用者の日々の生活の展開と実習生としての関わり方などを説明することが考えられる。

(7) 障害者支援施設

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

障害者支援施設に関しては、①施設（施設の範囲が広い）②支援（給付の数が多い）③障害（障害支援区分）④アフターケア⑤その他（歴史）などの補足説明が必要になる。

補足内容として、①施設（施設の範囲が広い）については、日中活動の場（生活介護）と夜間支援（施設入所）の場に分離されていること、②支援（給付の数が多い）については、障害のある人が受けるサービスには介護給付と訓練等給付があり、実習対象となっている所は介護給付に位置すること、③障害（障害支援区分）については、全国共通の80のチェック項目で判定され、支援区分が1から6までに位置づけられ受給者証が発行されること、④アフターケアについては、施設入所サービスを受けていた方の状態が改善されるとグループホームなどに移り、そこから日中の生活支援サービス（生活介護）を受けるようにしていること、⑤その他（歴史）については、今日まで障害をもつ人が歩んできた道のりは順風満帆ではなかったことを説明することが考えられる。

3 授業の感想

学生の感想を分類すると《他学生の発表》《分かることの嬉しさ》《プレゼンテーションの工夫》《実習への期待》《授業をとおして考えたこと、理解したこと》《提案》の六つの内容になる。

今回の自分たちで調べ、発表する事業形式の中で、学生の中にある内発的動機付けを発動し、さまざまなことを学んで欲しいという

意図通り自発的に発表の仕方を工夫し、友達が発表に関心を持ち、理解することへの楽しさを経験し、その結果として、さらに自分なりに考えたことを発展し、次年度の実習への期待につながっていったものと思われる。

V 課題

多くの学生は、今回の演習形式の取り組みに対して、次回も演習形式での学びをしたいと回答していたが、学びの満足度という点では、「すごく満足」より「少し満足」が多かった。その理由として、自分たちだけで調べ発表したものには何か不足している、よく分からないままのところがある、ということが関係していると思われた。これは、第2回目から第7回までの自主的な学びの後に、グループごとに作成させた冊子に毎回取り組んだ内容を記載し発表させたが、この冊子では調べていく中で直面した質問や疑問などを明確にすることを求めなかったことも関係していると思われた。

そのため①開始時点で前年度同様に冊子をグループごとに作成させ、授業終了後の発表はせず、その代わり取り組みの経過並びに質問を書くようにさせて教員に提出させる。②教員が、提出された冊子に書かれている学生の質問、疑問等にコメントを記載し、当該授業開始時にグループごとに説明し、返却する。併せて授業中に冊子にコメントしたことへ理解促進を図る。③8回目以降のグループ発表後に、発表内容への肯定的な評価を必ず行う。④発表後の補足説明と併せて、実習生として

学んで欲しことや保育実習日誌の書き方を例示説明する、などが考えられる。

このような取り組みをすることで、学生の学びを確実なものにし、実習へ取り組む構えを今まで以上に醸成することが可能になると思われる。

その結果、学生の満足度と言う点においても希望する授業形態に関係なく、「少し満足」から「すごく満足」へと移行することが期待できると思われる。

平成 27 年度の保育実習指導 I（施設）は、この①から④の取り組みを踏まえた授業を展開し、再考することとしたい。

IV 参考文献

藤 京子 「保育実習指導（施設）における授業内容の考察と課題」全国保育士養成協議会第 51 回大会、2012 年

松本 峰雄 監修 藤京子 増南大志 中島健一郎 「より深く理解できる施設実習」萌文書林、2015 年 10 月

本山 芳男「実習指導（施設）についての一考察」日本乳幼児教育学会、第 24 回大会研究発表論文、2014 年

本山 芳男 「実習指導 I－2 における自主的な学びの導入」千葉敬愛短期大学紀要、第 37 号 2015 年 3 月 P101～110

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

資料1 アンケート

このアンケートは、今回の授業を通してみなさんから意見や意向などを聞き、2年生で学ぶ「社会的養護内容」等の授業に結びつけ、さらに保育士としての力が付くような取り組みを考えるためのものです。それぞれの問いにお答えください。

【問1】 今回の「保育実習指導Ⅰ（施設）」の授業の進め方についてお聞きします。授業開始時に思ったことを一つ選んでその番号に○をつけ、理由を書いてください。

- 1 先生が説明し、学生がそれを聞く授業形態がいいと思った（講義形式）。

理由：

- 2 自分たちで調べ、発表する授業形態がいいと思った（演習形式）。

理由：

- 3 よくわからない。

理由：

【問2】 15回の授業が終わって改めて思うことを次の中から一つ選んでその番号に○をつけ、理由を書いてください。

- 1 先生が説明し、学生がそれを聞く授業形態がいいと思った（講義形式）。

理由：

- 2 自分たちで調べ、発表する授業形態がいいと思った（演習形式）。

理由：

- 3 よくわからない。

理由：

【問3】 今回の授業の満足度を一つ選んでその番号に○をつけてください。

- 1 とても満足 2 少し満足 3 どちらともいえない 4 あまり満足していない
5 全く満足していない

【問3-1】 ○をつけた番号の理由を書いてください。

理由：

【問 4】 あなたが調べた施設に○をつけてください。

乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、児童自立支援施設、肢体不自由児施設・重症心身障害児施設、知的障害児入所施設、障害者支援施設

【問 5】 あなたが調べた施設について書いてください。

- 1 良く分かったことはどんなことですか。
- 2 よく分からなかったことはどんなことですか。

【問 6】 他のグループ発表について、一番理解しやすかった施設に○、理解しにくかった施設に×を、それぞれ一つだけ選んでつけてください。

乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、児童自立支援施設、肢体不自由児施設・重症心身障害児施設、知的障害児施設、障害者支援施設

【問 6-1】 ×をつけた施設の理解し難かった点は、どのようなところかを書いてください。

【問 7】 授業全般について、感想を記入してください。

ありがとうございました。

保育実習指導Ⅰ（施設）の自主的な学びと施設理解

資料2

表10 他グループ発表の中で「理解しやすかった」施設

児童養護施設	乳児院	母子生活支援施設	児童自立支援施設	知的障害児入所施設	肢体不自由・重症心身障害児施設	障害者支援施設	無回答	計
10	39	25	16	36	14	19	21	180

表11 他グループ発表の中で「理解しにくい」施設

児童養護施設	乳児院	母子生活支援施設	児童自立支援施設	知的障害児入所施設	肢体不自由・重症心身障害児施設	障害者支援施設	無回答	計
3	3	9	11	17	60	15	62	180

資料3 授業感想

《他学生の発表を聞くのが良かった》(17/115)

- ・どの施設も工夫した発表方法でわかりやすく良かった。
- ・発表するのが大変だったけど、劇や他の発表を聞くのが楽しみだった。

《分かることの嬉しさ》(25/115)

- ・それぞれ施設で行われていること、どのような子どもが入所しているのか知ることが出た。施設に少し興味を持ちました。

- ・自分たちで調べて理解を深めていく形が良かった。利用者のことをもっと知りたいと思った。様々な施設のことを知ることが出来た。グループ発表を工夫していてわかりやすく学ぶことが出来た。

《プレゼンテーションへの工夫》(10/115)

- ・発表の仕方、どうすればわかりやすくなるかなど考えたり、調べたりするのが難しかった。ある程度の発表は出来たと思うのでよかった。
- ・自分たちで調べて、聞く側の方がどうすればわかりやすいのかを考えることで、さらに深く調べることによって理解が出来た。

《実習への期待》(5/115)

- ・今まで知る機会のなかった施設や障害について知り、今後の実習などにおいて活用することのできる内容だった。
- ・2年次の施設実習に少しでも役立てばと思います。ひとつひとつの施設のあり方を理解したいです。

《提案》(3/115)

- ・発表はいいけど準備期間が短く、求められる内容の質が高すぎる。
- ・講義やDVDで授業をしたいです。

《授業をとおして考えたこと、理解したこと》(55/115)

- ・施設ごとにそれぞれの役割があって、施設の存在はとっても大きいもなんだと思った。
- ・自分で調べたことで普段の授業なら気にしないところまで知ることができた。